

「農業環境リスク指標」研究とインベントリー

Research on Agro-Environmental Risk Indicators and Natural Resource Inventory

神山和則*

Kazunori Kohyama

平成 18 年度からスタートした中期計画において農業環境リスク指標を研究するリサーチプロジェクト（「農業環境リスク指標」RP）が発足し、リーダーを担当することになりました。農業には作物生産という重要な役割がありますが、この他に多くの機能があることが知られてきました。一方、農業活動が周辺環境へ様々な悪影響を及ぼしていることも否定できません。そこで、「農業環境リスク指標」RP では、わが国の農業が環境へ及ぼす良い影響（便益）や悪い影響（リスク）を評価するためにわかりやすい指標（農業環境リスク指標）を作成する研究に取り組んでいます。農業環境リスク指標を用いることで、環境へ及ぼす影響をわかりやすく評価でき、環境にやさしい農業に有効な生産技術を選ぶことが可能になると考えています。また、指標の値の経年変化や地域分布を見ることにより、環境保全型農業の推進に有効な政策立案に役立てることもできます。現在、(1)養分からみた指標、(2)土壌保全からみた指標、(3)農薬使用からみた指標、(4)生物多様性を評価する手法、の 4 つの研究テーマについて取り組んでいます。

農業環境リスク指標を作成するにあたっては、気象、土壌の性質、生物の生息状況、あるいは土地利用や営農情報などの様々な自然・社会的条件の情報が必要になります。農業環境指標の先進国であるカナダでは土壌侵食や水質汚染リスクなどの指標を作成するにあたって国家規模の土壌のデータベースである CanSIS を利用しています。日本においても同様に、農業環境に関する情報を収集・整理・発信する農業環境インベントリーセンターとの密接な連携によって、これらの情報を有効に利用することができ、研究が進んでいくと考えています。

インベントリーに蓄積された情報を一方的に利用することばかり述べてきましたが、研究の過程で作成されるデータをインベントリーに蓄積する、といった双方向のやり取りによりインベントリーが充実するとともに研究も進んでいくのではないかと考えています。単独の情報ではわからなかったことが、複数の情報を組み合わせることで明らかになることはよくあることです。こうしたことから「農業環境リスク指標」RP で作成したデータの登録を予定しています（詳細は本文中に記載）。

農業環境インベントリーの充実のためには、皆様の知恵と情報が不可欠です。ご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

* 農業環境インベントリーセンター

Natural Resources Inventory Center

インベントリー、第 6 号, pl (2007)